

仏心(ほとけごころ)を みつめて……。

今年も残すところ後1ヶ月となりました。1年というのは本当に早いものです。年の瀬と言えば、昔からNHKの「紅白歌合戦」や「大河ドラマ」といったテレビ番組が気になり出す時期でもあります。二年前からは格闘技ブームの波に乗って、あつちもこつちも格闘技番組を放映するようにもなりました。テレビチャンネルも数年前には考えられない程の数に増えました。衛生チャンネルだと、数十チャンネルにまでぼる始末。そんな民間放送(富山で言えばチューリップテレビ)を付けてみると、仮に30分の番組だと、その前後10分間は、コマーシャル(CM)が流れている。テレビがお好きな方は随分我慢強いことだと、いつも感心させられています。そのコマーシャルを見ていると、「これを使えば魅力的になる・このタレを使うと焼き肉が一層美味しくなる・これだけで体脂肪がグッと減らせる・脳の働きが良くなり成績が上がる・これで万全、使用前、使用后……」。これでもか、これでもかとい

う程に私達の欲しい物を宣伝しています。

あれらをよくよく考えてみると、売る側が大変なコマーシャルの費用を投じて売ろうとするのは、私達の心がこうなりたい、この様な便利な物があると良い。これが手に入ると、あれも欲しいと：次から次に欲しくなる自分の心が写し出されているのですね。そして私達はその事に全く気がついていないのではないのでしょうか？

この事について仏様は『**放逸にして五欲ごよくに著し、悪道の中に墮ちなん…**』と示されておられます。

われわれ凡夫の衆生は五欲ごよくに著して、これも欲しいあれも欲しい、欲しい欲しいと自ら求めて欲の渦の中に自分自身で沈んで迷ってしまうのだよと戒められています。

「**五欲ごよく**」とは、先ず目です。次に耳・鼻・舌(口)そして身体(皮膚)です。これを五感と呼びます。この五感が心に情報を送る受け窓口になっています。この五感はその五感それぞれに感じたままを心に送ります。心がそれを取り込むと欲が起るのです。あれもこれも欲しいという情報を起こすのです。「目」というのは、色や形や物、あるいはそういうものの動きを情報と

して心に送る。例えば、彼女や彼氏と腕を組んで街を颯爽と歩いていたらしましょう。もうワクワク楽しくてしようがない。ところが向こうの方からその彼女よりも綺麗な女性が参りますと、手を組んでいるのも忘れて綺麗な女性に目を奪われてしまう。彼女だつて向こうから格好の良い男性が来れば、そつちに目を奪われるというような欲が起る。こうして五五つの情報源から色や形、声や音、匂い等々。欲というのは非常に利己的だから私情という。まず自分の利益を考える、自分のことばかり……。しかし食欲とか、性欲にしても五感から取り入れる欲が起きないと自分の命を維持できないし、子孫を残すこともできない。だから仏様は欲を私達に与えてくださっている。駄目だとは仰っておられない。しかも仏様は、私情と理性を道に従って真にあんばいよく働かせるために、私達の心の一番奥に仏心(ほとけごころ)をも与えて下さっているのです。しかしこれに気がついている人は稀で、ほとんどの人が知らない。この仏心はお題目を信じ、お唱えする人だけが呼び覚まして、頭れてくるという事を知らない。仏心とはお題目ですか働かないのです。ここが肝心要!

「南無妙法蓮華経」と唱える、南無妙

法蓮華経に信を捧げて日々の生業に精進する、そこに仏様の慈悲の光りが働く、仏様にお任せをした生活が出来るのです。これを「**即身成仏そくしんじょうぶつ**」と言います。ある人は、南無阿弥陀仏があるじゃないか、南無大師遍照金剛だつてあるじゃないかと、色々なご宗旨の方もおいでになるうかと思うが、南無阿弥陀仏では、私達の心の奥に与えられた仏心は、残念ながら呼び出せないのです。本来お念仏の信仰は、お念

仏を唱えて阿弥陀様の18願にすぎり極楽浄土へ往生する信仰です。

私達1人1人の心の奥に与えられている己心の仏性を信じ、お題目によって己心の仏性を呼び出すお題目でなければ、平和な仏の世界をこの世に顕せない、この世での成仏ができませんのである。

私達の生きる目的は詰まるところ、自らの魂を鍛えることにある。仏様が私達に遺して下さった最後のお言葉は：『**その魂を磨く唯一の方法は、法華経・南無妙法蓮華経の実践にほかなのである**』と……。

自分は二の次、三の次で、まずは相手を幸せにする「南無妙法蓮華経」を唱え、そして「南無妙法蓮華経」を実践できるように、日々の信仰をお薦め致します。



合掌
副任職
谷川寛敬